



労働局長安全衛生優良事業場訪問レポート Vol. 2

～メンタルヘルス対策～

(訪問日 令和5年11月28日)



有馬 猛夫 社長

《メンタルヘルス対策に取り組まれるようになった経緯は》

創業当時は3名で会社を始め、徐々に仲間を増やして事業を拡大していきました。その過程で前途有望な社員が癌で亡くなるというショッキングな事件があり、労働者の健康管理の重要性を意識するようになりました。一方、仕事はどんどん増えて、長時間労働によるメンタル不調者を出さないための重要性を強く意識するようになりました。決定的だったのはリーマンショックがあり、仕事は3分の1に減少しましたが、半数の社員が会社に残ってくれた出来事です。「一期一会」の精神で、残ってくれた社員を何としても守らなければならない、日本一健康な会社にする！と強く決意し、メンタルヘルス対策を含む健康経営に取り組むこととしました。

引き続き、健康経営優良法人(ブライツ500)の8年連続認定とともに、メンタル不調による休職者ゼロの職場を目指します。

《メンタルヘルス対策の推進が事業に反映された事例》

事業として各種ソフトウェアを開発しています。メンタルヘルス対策の取組を進めるにつれて、現行のストレスチェックアプリの多くは、チェックして完了という設計が多く、ユーザにとって役立つ仕様になっているか疑問に感じました。そこで、私たちの開発したアプリは、チェックの結果、改善点を提案できる仕様としました。このことは、職場におけるメンタルヘルス対策に取り組むことにより得られた問題意識が、製品開発につながったものと感じています。



《労働者の声》

- ウォーキングラリーは、ニックネームで歩行距離を全労働者で共有しています。自分の取組成果が他の社員と比較でき、また、表彰制度もあるので励みになっています。
- 健康経営の担当者として社内の健康イベントを企画しています。正直、健康イベントには絶対参加しない人がいます。このような人達に、どう健康への意識付けをすることができるのか、アイデアを出し合いながら取組を進めています。



政広さん

浜岡さん

新谷さん

《労働局長からお礼とお願い》

大変、立派な取組をしていただいています。継続しての取組をお願いします。また、ラジオ体操も良いですが、転倒防止のアクティブ体操®に置き換えていただくこと、また、SAFEコンソーシアムへの加盟についても、御検討いただき、より高いレベルの取組を目指していただくようお願いします。

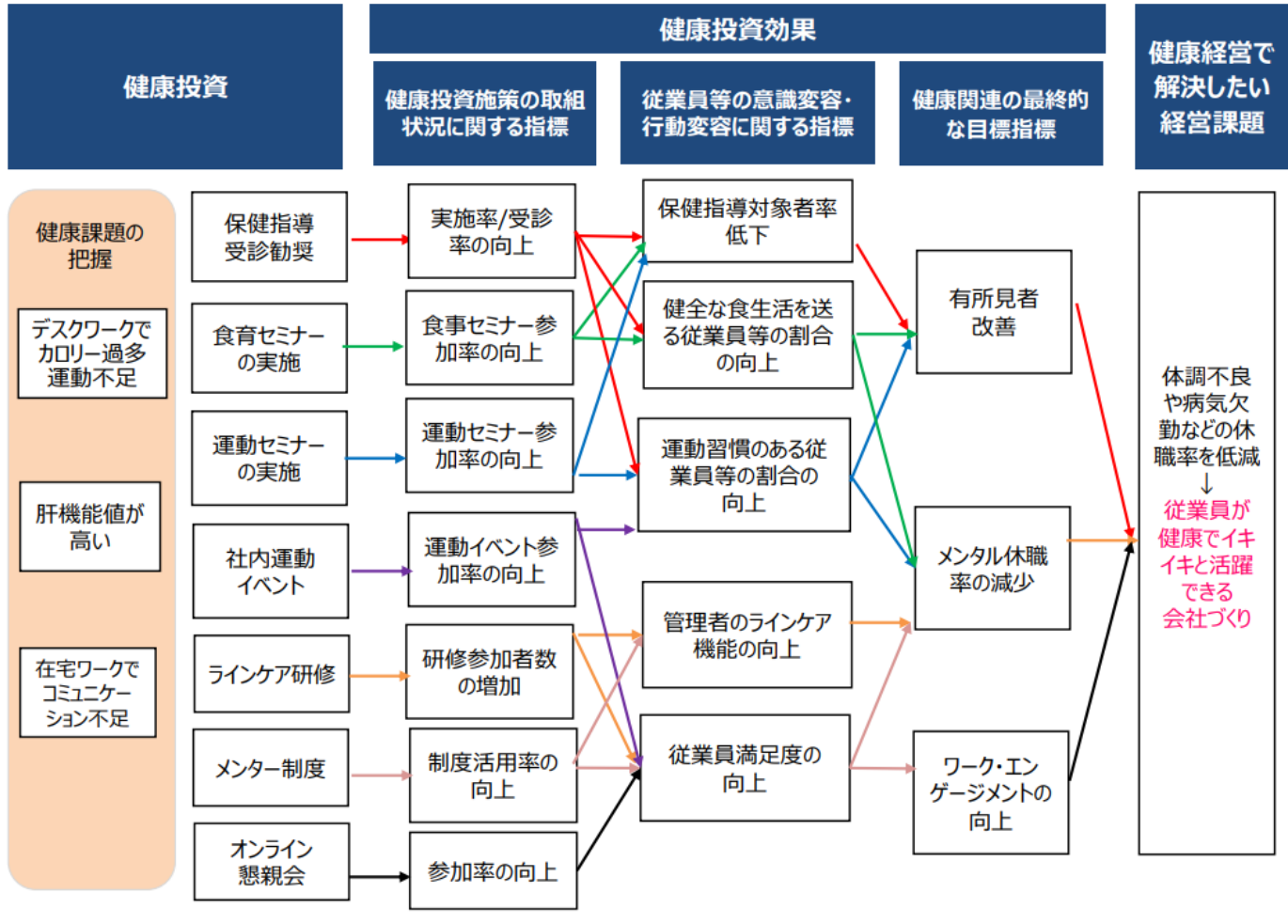


株式会社ネクストビジョンの取組事例



【はじめに】衛生委員会で審議して戦略マップを決定
 全員の意見を真摯に耳を傾けることからスタート
 産業医だけではなく、健康経営顧問にも参画していただき、みんなで健康課題と取組の方向性を協議して、**戦略マップ**を策定

【戦略マップ】※経済産業省「健康投資管理会計ガイドライン」を基に作成



取組1 各種健康セミナー・社内研修

- ・全社員にセルフケア研修を、必ず毎年実施
- ・管理職にラインケア研修を、必ず毎年実施
- ※早期の異変に対処できる体制づくり
- ・産業医による「衛生講話」⇒ビデオで全員が視聴
- ※医師のショートセミナーにより意識の改革



取組2 心身の健康確保のための多様なイベント

- ・全従業員へスマートウォッチの配布
- ・定期的なウォーキングラリーの実施
- 歩数申告による一ヶ月間の歩数による表彰
- ・国際マラソン、リレーマラソン等の出場
- ・朝礼後のラジオ体操など



取組3 メンター制度 (ブラザー・シスター制度)

「先輩⇄後輩」の関係を制度化、信頼関係の構築による風通しの良い職場

※メンタル疾患の抑止効果

